

平成 29 年 5 月 26 日 (金) の三重タイムズに、5 月 20 日 (土) の 5 月例会の記事が掲載されました。

石垣前副知事が講演 「民間の人脈ネットワークが花開く」 都市環境ゼミナール 5 月例会



話す石垣氏

都市環境ゼミナール「氏が「三重県行政に携
(伊藤達雄会長) は 20 年、今、振り返る」
日(土)、アスト津(津)と題して講演した。
市羽所町)で5月例会
「伊勢志摩サミットは
を開いた。講師として招
かれた前副知事の石垣英
が、菓子博が失敗した
ら評価は下
がる」と
言った。退
任後も、毎
日会場に詰
めて応援し
た。こう
話す石垣氏

は「40年
間に5人の
知事に仕え
た。行政と
政治のはざ
まに生きてきた異色の役
人」と自身を振り返る。
副知事になって果たす
べき課題は、県政の負の
遺産を片付けることであ
らう。県境で愛知県とも
めた木曾岬干拓は高速
道路から西は工業団地
に、海側はメガソーラー
と自然公園にした。50
年あまり手つかずだった
大仏山公園は里山とし
て保全することで、伊勢
市と明和町の理解を得

た。不幸な事故のあった
RDF発電は31年に終了
するめどがいた。企業
庁の水力発電は昨年度
末に正式に中部電力に
移管が完了した。
副知事時代の成果を
強調しながらも、「40年
間に知事や上司にはいっ
ぱい迷惑をかけ、タツチ
ロール人生だったが、民
間の方々との多くの出会
いがある、人脈ネット
ワークのお陰で副知事を
勤めることができ、伊勢
志摩サミットで花を咲か
せることができた」と感
謝の気持ちを語った。
知事の思い出として、

「県政を大きく変えた
のは県民目線、生活者
目線を訴えた北川正恭
知事時代。予算の効率
化、県民満足度を測れ
と、行政改革の先鞭を
付けた。自分は議会対
策のプロを自認していて、
北川知事が訴えた、アン
ダーザテーブルからオンサ
ーテーブルへ。情報公開へ
と走り出して、私もど
ぶり北川県政に漬かっ
た。しかし、2期目は、
インフラ整備に力を入れ
ず、他県に大きく後れ
をとるようになった」と
指摘した。
現知事との出会いは鈴

木氏が27歳の頃で、「通
産省時代の鈴木さんは
議論好きで、三重県産
業支援センターによく来
てくれて、5000円の弁
当を食べながら議論し
た」と振り返り、さら
に続けた。「知事になら
れて障害者雇用を全国
47番目から20番目まで
引き上げ、全国でも低
位でタブーだった小学生
の学力をやっと全国平均
に近づけてきた。顔の見
える県政をアピールして、
オールド三重の県民参
加を訴えてきた。財政
は厳しく、県行政だけ
ではやっていけない時代。

県職員も30〜40歳代は
厳しく鍛えてきた。他
県の職員に連れをよこ
とは無い。自信を持つて
頑張れと励ましている」
と最後は胸を張って語っ
た。
都市環境ゼミナールは、
昭和47年に三重大学の開
放講座「都市環境デザ
インの理論と実際」を受
講した参加者によって昭
和48年1月に創設。以
来43年間毎月例会(学
習会)を開催している。
問い合わせは都市環境ゼ
ミナール(伊藤達雄研究
室内)電話059(2
31)6403。